

第2回「江井ヶ島にお住いの高齢者の話を聞く会」

日時：2016年（H28）9月15日 13：00～15：00

講話者（男性3名・同級生・82才・昭和9年生まれ）

【内容】

私たちは82歳で、終戦の時は小学5年生で、3年生くらいまでは勉強もあったけど、それ以降は自習ばかりで、この年齢では何故か一つ上も下も少なく私たちの年齢が一番多く、倍からいました。

先生が代わってしまったり、いないが多かったのが昆虫取なんかに行ってオニヤンマなどを良くとったものです。ただ、戻って来て先生に見つかって立たされたのを憶えているのを忘れもしませんわ。ハハハ。勉強していない年代です。

当時は昼に集団で家に食べに帰りまして、防空頭巾をぶら下げて、例えば西島は東、西、下所、上所、言うて4つの区分けで帰っていました。それでもちゃんと昼からも来ていました。しかし空襲警報が鳴ったら帰る、帰る途中で鳴ったら途中で急いで帰るんです。今のパトカーみたいにサイレンが鳴り続けて、警戒警報なら1回だけ鳴りまして、「空襲や」と言うて急いで帰っていました。東島の方は早く家に帰れるが、西島の人遠い人はどのようにして帰っていたのか、今となっては聞くわけにいきませんが。

もっと小さい時の子供の時はまだ（太平洋）戦争なんか始まっていなかったけど、遊びでもベッタンなんかは兵隊さんの図柄ばかりでトランプなんかはありません。ゲームは軍隊の関係するもので、スパイではなく当時は間者と言うのが強くて、歩兵がすぐにまけましたわな。支那事変…

履物が無く、わら草履を履いていきました。おじいさんが作ってくれていました。終戦後靴の配給が組に3つあってその人らは靴はいて来て、履いてきたその日の勉強中に盗られて無くなってしまいました。

江井ヶ島から疎開で出て行くと言う事ではなく、疎開先として多くの方が来ていました。江井ヶ島は集団疎開先ではなく、縁故を頼って子供たちは親戚に泊まったり、西江でも大きな家は余っている離れを提供していました。

小学校から赤根川まで田圃が段々畑の棚田になって作っていました。

魚は豊富に獲れて海ではボラをよくとって良く食べていた。当時のボラは高級魚でした。潜ったらいっぱい魚が獲れて、タコもいっぱい獲れました。その頃は江井ヶ島だけでなく、魚住、浜谷に、藤江にも漁協があつて、江井ヶ島の海岸であさりもよく獲れました。

貝を使ってよく遊びました。

食事と言えば雑炊ばかりでした。

農業ではお父さんは兵隊に行っており、お母さんが田圃を作るのですが、お母さんは人糞の肥料運びはそんなの慣れていないので苦勞するのですが、子供も労働力として用事させられる状況で男も女も一緒に働きました。

国には供出があり、お父さんがいる家は作物が良く出来るが、お母さんの家は出来が悪い、しかし、一反なんぼで決まったものを出さねばなりません。えらい目に遭いました。

西海と市役所に勤務していた人が体格が良くて終戦の一年前くらいに学校の推薦で予科練に行きました。

私の父は商売をしていたが、国の徴用で九州の炭鉱に働きに行きました。農業をしていたら、収穫の後、近所の人が下に落ちた稲穂を取に来て、それを拾って家で一升瓶に入れておくのです。近所の人がとっても食料がないので叱る訳にもいきません。百姓の人は良いがそうでない人は食糧は配給で、しかし配給もあてにならない状況、当時は隣保の結びつきが強く、助け合っていました。今では隣は誰がいるか分からないですわな。回覧もポストに入っていて顔がわかりませんな。

防空壕は住吉神社の東側にえべっさんの祀ってある裏側に掘りましたがあまり使わず、1回入った程度でした。私の場合は家の狭い所で掘って、木を置いてその上に土を乗せた程度で焼夷弾が落ちたらボトンと言ってしまうような形だけの粗末なものでした。

B29 を浜で見て、江戸時代に作られた番所があって近くにしっかりした蝸壺のような防空壕がありましたが、実は敵が上陸してきたときに攻撃するものでいっぱいそのようなものがありました。今から考えると幼稚で日本はそんなもんでした。海の向こうに商船学校の船がおって艦載機がブルルルと撃って行ったのを見ました。

川崎の空襲の時は昭和 20 年 1 月 19 日でした。貴崎の南に高射砲もありました。その高射砲が一つも当たりません。山陽電車が林崎にかかると車掌が電車の窓を閉めるように指示があり、川崎航空機の工場を見せないようにしていました。電車は昔の市電みたいに前にカウキャッチャーがついているのもありました。当時はまだ電車の踏切に踏切番がいて、江井ヶ島の踏切番は有馬さんという方が長く勤めていました。いまなら電車が接近したら分かるようになっているけど、どのように分かっていたんか疑問ですな。

江井ヶ島も爆弾は 1 発だけ海に落ちました。しかし被害はありませんでした。反撃の日本の飛行機なんかは見たことがなく飛んでいません。焼夷弾が遠くに落ちるとばらばらときれいに落ちて行きまして、姫路の空襲も見えました。家が燃えて空が真っ赤になって夕焼けのようでした。

林崎付近は空襲で工場の生産部品が焼失することを恐れて民家に部品を下請けやメーカーが預かってくれと保管していた民家がありました。

あるとき山陽電車で帰る途中、川崎航空機への空襲により、西舞子で停まってしまっていて歩いて江井ヶ島まで帰ったと母親から聞きました。

国民学校では軍隊教育で天皇陛下の御真影が飾ってあってそこを通るたびに頭を下げるんです。

終戦は5年生の時でした。私の姉が酒蔵で職員が4人で女性が1人の軍関係の仕事を12月に従事して翌年の8月に終戦となりました。終戦になったときにカニ缶や食べ物がいっぱい入っていたのを貰ってきました。軍需産業関連の隠し場であったのではないかと思います。

戦争前からの医者の中尾の正井医院しかなくて、江井ヶ島の井上医院はそのあとから、萬谷さんもずーと後からです。当時は薬もなく、ちょっと診てあとは寝ているだけで、おじいさんが2人死にました。昔は往診もあり、元の学校橋の東側が郵便局があってその斜め前に人力車の車屋さんがありました。医者が往診用で利用していたと思います。

今は交番と言うのになっているが、昔は駐在さんがあって、今の江井ヶ島から自然の家に行く途中の5差路の角に、今は住元さんが御住みになっている所に山田巡査が駐在さんで勤務しており、この人が酒好きで有名でした。住民から山田の駐在と言われていました。

今から5・60年くらい前の江井島小学校の前の浜国は砂利道で、浜国の北側と南側の高さは同じ位の高さの丘の状態がその間の低い位置にありました。南側の高い丘の状態を低くして明商を作ったわけですが、そこから出る土は粘土用の良い土で掘った土を馬力で瓦用、土管用として運んでいました。その後、明商がここに移転して、さらに魚住に移転、小学校がここに移転しました。

会社と言えば、江井ヶ島酒造で、西島の方は酒蔵に勤めていた人が多く、昭和25年で日給が110円で、当時は例えば江井島に10人いたら、半分も高校に行っていない時代で3年したら高校を出た同級が入って来て月給8,000円もらってびっくりしました。よそは安くて江井ヶ島酒造だけ給料はすごく良かったことを憶えています。

シンチュウと言ってまして新制中学のことですが、その頃は校舎がなく大久保中学の江井ヶ島分校で先生が3人くらいおり、私たちは一期生でした。昔は小学校は6年、尋常小学校が2年、青年学校が3年と思います。(旧制)中学校と言うのはというのはあったけど、

戦後に新制中学校が出来ました。ちょうどこのころに義務教育の新制中学が出来たので、新中に行きました。男女共学でした。

私は中学出て、八木まで行ってそこから北へ上がって大久保にあった高砂の松陽の分校の夜間に通学しました。4年間行きましたが、会社も学校があるからちょっと早く帰らせてくれるんです。他は亡くなってしまいましたが、私だけが残っています。5人行きましたが今では私だけとなりました。

特に戦後は教科書がなくて先生もやりにくいと見えて、何を喋るかと言うことですね。そこで考えていろんな話をしてくれます。ナガオ先生と言う先生がおられて、本がなくても、昔話は上手でした。

みんな仲が良いから勉強なんかせずに遊んでいました。3年生になったときに本校の大久保と合併しましたが、大久保は皆勉強して賢くて江井ヶ島はみんな勉強してなくてアホではないけど、皆勉強していないのです。しかし商売は上手でした。

大久保は社宅が多くて川崎や、川西で神戸工業、今の富士通の子供が多かったので勉強できたのです。西島の瀬戸物屋のタチバナケンジが技術部において、大和製衡や神戸工業、ニッケが川西財閥で、今は新明和が川西の財閥として残っているが、私の兄も技術部において短波を聞いているので戦争に負けるのを知っていたと聞きました。

小さいときは大きくなったら何になろうなんて考えたことはありません。お国のために、男やったら兵隊さんになると思っていました。

運動会の時に教頭先生が・・・戦争の事は、生徒がするのはチャーチルとルーズベルトをわらで作って「やー」と・・・・。

学校に憲兵が一人おって、職員室の教頭の横にいて、どんな教育をしているかを見張っていました。

「天皇陛下」いうたらパッと気をつけてしゃきとせなあきません。国のためと思わなければいけない。なんでも国のためでした。

先生に反抗でもするなら廊下に立って足蹴にされて、なんぼやられたか分かりません。それが終戦になったら、戦争負けたら先生がコロッと変わりました。

終戦後疎開させていた部品保管場所に行ってベアリングが沢山入たコマを終戦になったからと勝手に貰って4つ付けて国道を転ばして遊びました。

また西江井ヶ島駅に貨物の引込み線でそこで遊んでいました。

終戦後、江井ヶ島酒造で焼酎の原料の芋の倉庫があって港からも揚げて、また馬力で当時の国鉄の大久保からも運んでいましたが、その芋を子供の遊び心もあって、後ろから御者に見えないように勝手にもらっていました。

江井ヶ島酒造の工場の横から独特の匂いのする熱湯ではないけれど、沢山の蒸気が出りまして、湯を汲んでおりました。

当時は、夏は涼しくて、冬は暖かいので藁屋根の家が多く、火事が多く、特に森が多く、つけびとか、火事はほんと多くありました。怖かったですね。

今も続いてますが当時の最大の楽しみはサーカスなんかも来ていて、秋祭りで着飾らしてもらって、巻きずしや、イワシの寿司、いなりずしでお祝いして、親戚が来ていました。動タンパクがない時代ですから町ではクジラ、田舎では鳥を絞めてカシワを食べましたなあ。

昭和 24 年頃、中学 3 年の時に校長先生が朝礼で雑炊の作り方を教えてくれました。遠足は金ヶ崎の上に行きました。電車に乗っていったこともありました。西脇と金ヶ崎神社の東に温泉があった。

遊びの野球なんかは金持ちの子や酒屋さん、景気のええとこのボンが道具を持って遊びました。

紙芝居は紙芝居屋が食べるもんを売ってそれを買って見ました。小学校の近く木下のブリキ屋の南の方に貸本屋があつてあれが楽しみでした。池にある「はす」の黒っぼいヒシを美味しく食べました。特に甘い物が無かったので美味しく思いました。ずっと家の外で集団で遊んで、いろんなゲームやガキ大将の言っていることをよく聞いていました。横のつながりもあったけど、縦のつながりもあったように思います。

以上